

# 明政会

## 行政視察報告書

### ◇中標津町

#### 【あそBOY! つなGIRL! 「みらいる」について】

□平成30年7月9日(月) 14:30~16:00

□視察場所: 中標津町児童センター(みらいる)

#### 【視察目的】

全国的に子育て世代は、保育園、幼稚園、小学校の授業終了後の面倒など、大変苦労している。核家族化が進み、他に子どもの面倒を見てもらえる家族がいない中、全て自分たちだけで面倒をみななければならない。

土浦でも、その苦労をしている子育て世代の方たちが大勢いるなか、地域で子どもを育てるという理想的な施策を勉強いたしました。

#### 【視察内容】

現場である中標津町児童センター「みらいる」で、現場で実際に見ながら説明を受けました。地域の中高校生で建設プロジェクトチームを結成し、赤ちゃんから中高校生までが集う場として、総合的な児童健全育成の役割を持つ運営内容を説明いただきました。

#### 【質疑応答】

Q 人口規模にしては小学校が5校と多く、小学校区全てに児童館を配している。その上でまた児童センターを作るというのは、施設が多すぎるという不安などはなかったのか。

A 中標津でも核家族化が進行していて、子どもを育てる環境が変化してきている。それを地域で見守ることが必要ということになり、その強い必要性から、不安はなかった。

Q 中高校生がこれほど児童センターに来る姿をいうのは見たことがないが、どうゆう事でこんなに集まってくるのか。そのやり方は。

A 企画の段階から地域の方たちと一緒に考えていこう、というコンセプトでした。主に中高校生には、最初の企画から参加してもらったので、その分、愛着があるのかもしれない。また、この町の人口の少なさも影響しているのかもしれない。知り合いが多くなるので、親近感もあるのだと思う。

北 海 道 中 標 津 町



# 明政会

## 行政視察報告書

### ◇根室市

#### 【北方領土問題・現地視察（納沙布岬）】

□平成30年7月10日（火） 9:00~12:00

□根室市役所 納沙布岬 北方館

#### 【視察目的】

戦後、不法にロシアに占拠されている北方四島を間近に見ている根室市。市として、今までどのように向き合いながら対応してきたのか。そして、これからどのような方向での行動をしようとしているのか。

国レベルの国交問題である事項について、市がどのような考えや行動をしてきたのか。市としてできることとは何かを学びました。

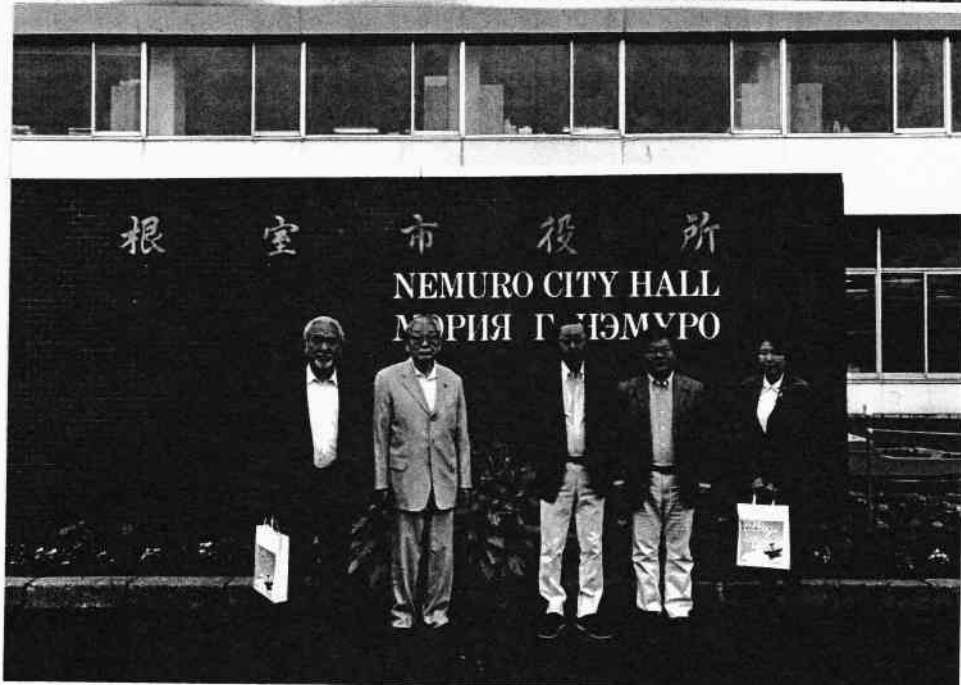
#### 【視察内容】

根室市役所で不法占拠から今までの一連の詳細を伺い、その後、現地である納沙布岬で歯舞諸島や国後島を視察。納沙布岬にある北方館では、北方四島についてのより一層詳しい詳細について伺いました。

#### 【質疑応答】

- Q. 共同経済活動は返還にどのように寄与するのか。
- A. 73 硬直状態で国と国レベルで色々を進めている。このような状況の中、共同経済活動を進める上でも根室だけがおいて行かれては困る。そのやり方、あり方などをもっと考えなければならない。
- Q. 国民は北方四島の知識がないから、情報を全国の市議会に流して署名をしてもらい国に陳情してはどうか。
- A. 議会として進めていく。全国署名も検討する。

# 北 海 道 根 室 市



# 明政会

## 行政視察報告書

### ◇豊頃町

#### 【鳥獣被害対策実態調査について】

- 平成30年7月11日（水） 10:00~11:30
- 豊頃町役場
- ご挨拶：藤田博規議長
- ご説明：神産業部長 永原産業課林政係長

#### 【視察目的】

土浦でも問題になっている農作物に対する鳥獣被害に関して、豊頃町での取り組みを伺ってきました。

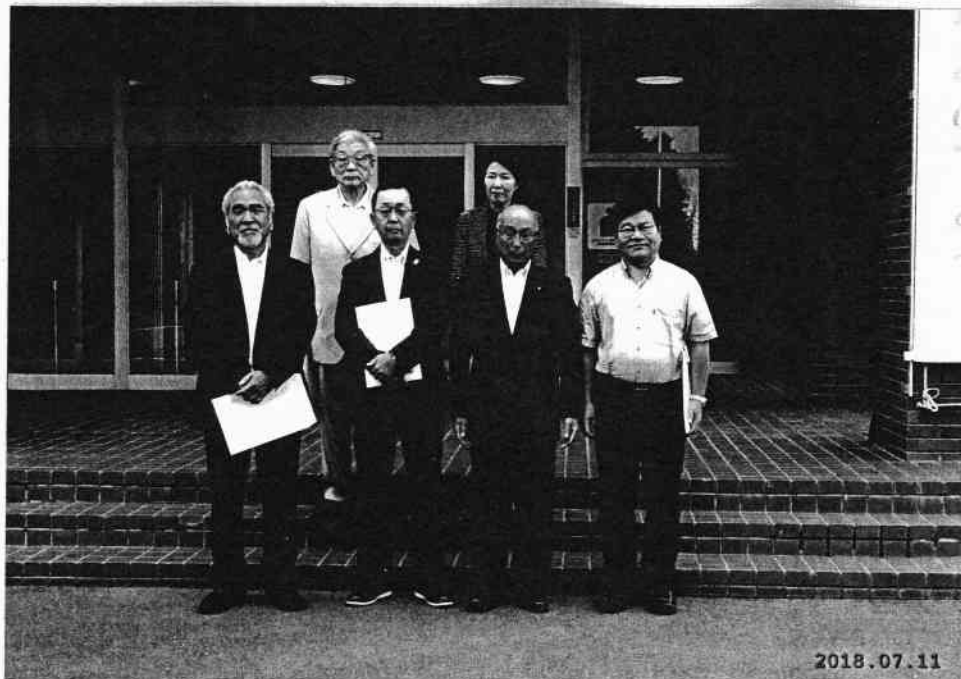
#### 【視察内容】

豊頃町ではカラスやキジバトなどの他に、ヒグマやエゾシカなど、種類や被害件数では、土浦よりも鳥獣被害は深刻である。具体的な対策方法や、それに係る経費などを伺ってきました。

#### 【質疑応答】

- Q. 狩猟者は年々減ってきていると思うが、その対策は。
- A. 確かに減ってきている。対策として、狩猟登録に対する補助を手厚くしている
  
- Q. エゾシカの残滓処理後の肉の部分はどうのように。
- A. 自家消費とエレゾ（エゾシカによるジビエレストラン）へ持参する。鉄砲の玉は、首から上に当たったものしか食用にならないので、頭数としては捕獲数よりかなり下回る。
  
- Q. 埋設費用は。
- A. 町が支払う。1k.gあたり80円（業者契約）

# 北 海 道 豊 頃 町



# 行政視察報告書

明政会 寺内 充

## ◆中標津町 「あそ BOY! つな GIRL!」「みらいる」の取組みについて

児童館を拠点とする子育て支援をしている。中高生の新たな居場所の確保を図り、地域とも連携した活動を推進し、子ども達の育ちを地域全体で見守っている。チャイルドアドバイザー制度を導入して地域の方々が様々な事業に参加して次世代を担う子どもを健全育成している素晴らしい事業だと思います。

## ◆根室市 北方領土問題への取組みについて

国の対応と根室市の北方領土問題への取組みについて温度差がある。戦前から北方領土に住んでいる人達が高齢化して平均年齢が 83 才になっていて過去の事を知っている人が少なくなっている。

国民が感心を持ち、早く解決していく問題だと思います。

## ◆豊頃町 鳥獣被害対策実態調査について

エゾ鹿の農産物への被害が年間 1,600 万円になり深刻な問題になっている。狩猟者の人達の高齢化が進んでいて捕獲に苦慮していて補助金を出して、若い狩猟者育成に取り組んでいる。土浦市でもこの問題に真剣に取り組まなければイノシシの被害を防いでいく事はできないと思います。

# 行政視察報告書

明政会 折本 明

## ◆中標津町 中標津町児童センター（みらいる）について

児童館を拠点とする中標津町子育て支援事業の一貫であり、みんなで育てるみんなで支えるがコンセプトとなっています。

土浦市では3ヵ所の児童館を運営していますが、中標津町では人口2万3千人の町に小学校が5ヵ所設置していて、小学校区に各1ヵ所児童館を配置しております。

土浦市にある放課後児童クラブは、中標津町には存在していませんが児童館の中にその役割がありました。児童館は子育て支援センターも併用されており、地域ネットワークの拠点として、地域に根ざした様々な取組みを展開しておりました。私が想像していた児童館の内容をはるかに越える施設であり、子育ての施策がいかに重要かを考えさせられた視察でした。

## ◆根室市 北方領土問題への取組みについて

視察前の北方領土に対する認識はほとんどありませんでした。

今年2月に沖縄の名護市へ、米軍基地移設問題で会派として初めて国際問題に取り組みましたが、マスコミ等でも数多く報じられている沖縄とは違い、一つの地域の問題である位の認識でした。また茨城の市議会として視察に値する事項か？とも考えていました。

7月10日根室市役所にて視察を行い、その足で納沙布岬で現地説明員との3時間以上にも及ぶ説明と質疑応答を行い、この問題は国民世論が全国的に広がり盛り上がるということがいかに重要かと考えさせられました。

そして日本全国の地方議員にも根室市を視察して、北方領土問題を深く理解していただきたいと思いました。



## ◆ 豊頃町 鳥獣被害対策について

全国的には問題視されている鳥獣による農作物被害や、人的被害の視察を行うべく北海道は豊頃町に、エゾシカを中心とした被害防止計画について勉強してまいりました。

対象鳥獣の捕獲体制には、特に地元猟友会が捕獲活動の中心的役割を担う必要が期待されることから、人員の確保や連絡体制の整備による対応など関係機関の協力を得ながら事業の効果的な実施に向けた体制の整備が図られていました。猟友会会員の減少や高齢化は全国共通の問題ですが、豊頃町では狩猟登録に対する補助制度や、狩猟免許新規取得に対する補助などを行い、会員減少に努力しております。また町、農協、森林組合、改良普及センター、など関係機関との連携を図ることで効率的な鳥獣捕獲体制の充実を築いていました。

土浦市においては、イノシシやアライグマ、ハクビシンによる農作物被害が急増している現状に、行政の中心的対応（役割）がせまられていると感じました。

# 行政視察報告書

明政会 吉田 博史

## ◆中標津町 中標津町児童センター（みらいる）について

中標津町の児童館は各小学校区にあります。児童館の核となる児童センター「みらいる」の建設により、利用者は増加して平成 28 年度には 10 万人を越える利用状況となりました。

そしてこの児童センターみらいるは、中高生が中心となって企画、立案して子ども達の目線で建設した全国でも例を見ないセンターです。

土浦市の児童館では、高校生の姿を見たことがありませんでしたので、大変驚きました。また高校生が小さい子ども達の面倒をみながら触れ合っている姿には、感動さえ覚えた次第です。

中標津町は酪農が中心の町ですが、核家族化の進行が進み子供達を取り巻く環境は確実に変化しているとお話があり、児童館の果たす役割は大変重要であると感じた次第です。

『みらいる』では、与える指導ではなく、子ども達の自主性を尊重した後ろからの指導ができている場所だなと感じました。

## ◆根室市 北方領土問題への取組みについて

道東の根室市近郊町村辺りから、『返せ！北方領土』の看板が点在しはじめ、根室市に入ると街全体が『返せ！北方領土』一色でした。

視察のなかで、戦後 70 数年が経過している現在の状況に、返還要求運動後継者の育成が喫緊の課題であり、全国各地で〈北方領土返還要求運動〉が広く展開されることが最も重要であるとの強い意思を感じました。

我々国民はまず、北方領土問題の歴史を正しく認識することが重要であると素直に感じた次第です。根室市議会の議長さんと、担当職員の方に対して意見を述べさせていただきました内容は、我々を含め全国の地方議員は、北方領土に対しての認識が浅いのが現状です。どうか根室市議会より全国の地方議会に陳情なり要望なり発信してはどうかということです。発信することにより、根室市への視察が増えることで我々のように、この問題に対する重要性や、国会の主権と民族の尊厳を改めて考える機会になると申し上げました。

## ◆ 豊頃町 鳥獣被害対策について

豊頃町では、エゾシカによる農産物被害が深刻な状況のため、猟友会の協力により、冬期間である2月～3月に一斉捕獲（週3回、20回程度）を実施しており、例年120頭～150頭の捕獲実績となっており、農作物被害額も一定の成果がでておりました。

また国庫補助を活用して、電気柵269,731mを6,300万円（8割補助）を設置したことにより、被害の軽減がみられました。

今後の取組みとしては、広域での連携が重要となり、有害捕獲の実施回数を増やし、捕獲頭数の増加に努めるとともに、捕獲活動の担い手不足解消のために、対策の強化を図るとのことでした。

対象となる鳥獣には、捕獲補助金を交付しておりました。捕獲については、捕獲計画数を設定しており、生息状況や被害状況をふまえたうえで、生態系との共存及び県境調和を重視しての設定であり、自然界の調和の難しさを感じた視察でした。

## 行政視察報告書

明政会 柳澤明

中標津町 あそ BOY! つな GIRL! みらいる

中標津町は人口僅か 23,000 人余り。小規模自治体ならではのきめ細やかな子育て支援の拠点として「児童館」を位置付けている。

その代表選手として、平成 27 年に開館したこの児童館「みらいる」は、その構想からデザイン、運営まで中高生によるプロジェクトチームの意見を最大限に取り入れ建設したものとお聞きした。

さらに、5 小学校地区の全てに児童館を配置し、「放課後児童クラブ」も児童館にて実施しているそうだ。これが本来の姿なんだろう。

視察当日、7 月 9 日午後 2 時ごろにはすでに児童館内は 4~50 人ほどの子供たちで賑わっていた。屋外には高校生が数人、代休なのでここにきているという。

この少年たちもかつてプロジェクトチームのメンバーだったのだろうか。自分たちも建設にかかわったという事でここに愛着を持ち、時間があれば顔を出しているらしい。

全国的に児童館の対象年齢は 18 歳、高校 3 年までとなっているが、中高生が当たり前のように来館する、できるというケースはそれほど多くは無いだろう。我が土浦市もしかりで、そのカリキュラムは殆どが児童向けになっているようだ。

学校を離れて地域の子供が同じ場所に集まり、同じ時間を過ごせるという事は、集団遊びや、そこから自ずと発生するであろう上下の関係など、子供の成長には大きな糧となるはずだ。

私たちの世代はともすると、子供があふれていた過去の体験を少子化の現在に被せて、あれこれ批判がましく言いがちである。しかし、どんな時代背景の中でも多少の援護があれば、子供たちは逞しく育って行くのだという姿を拝見させてもらった。そのために行政が、地域社会がなすべきことがこの「みらいる館」のポリシーに表れていると感じた。

「競う」ことをあまり教えたがらない戦後日本の平和教育が、関係者の方々をここまで苦しめているのだ、と言っては語弊があるだろうか。

神代の昔から戦とは「陣取り合戦」であり、その戦利によって国を治めてきたという事は歴史が証明している。時の為政者たちは国を守り、国民を守るために敢えて望まない戦にも参戦せざるを得なかった、この北方領土問題はまさにそんな「戦」による負の遺産である。

欧米諸国によるアジアでの植民地政策に日本が危機感を覚え、その結果として第二次大戦に参戦せざるを得なかったのか・・そんなことはさておいて、敗戦直前直後のどさくさに紛れ、「日ソ中立条約」を一方的に無視して北方領土に攻め入ってきたソ連軍による暴挙を、これまで日本の教育者たちはどのように教えて来たのだろうか。

尖閣問題にしても竹島問題にしても、余りにも他人事のように扱って来てはいなかっただろうか。

一部の政治家やメディアもしかりである。まるで腫物にでも触るかのような及び腰で対処してきたようにしか見えてならない。また、国を守るという根本的な使命感がどうも希薄な政治家が多いように感じてならない。

事の始まりはどうかあれ、物事は全てにおいて時間の経過とともに既成事実となり、いつしかそれが世の常識として定着してしまうものである。

この北方領土問題をこれ以上風化させないためには何が必要なのであろうか。それは世論に尽きると私は考えている。世論が盛り上がれば政治家はもっと真剣に動かざるを得ないし、そんな世論を作るためには、日本人が正しい「日本の歴史」を認識する必要がある。未だに大手を振って歩いている「自虐史観」を払拭させる必要がある。この「自虐史観」こそが領土問題に限らず、外交全般に渡って及び腰にならざるを得ない元凶であらう。

戦後、GHQによる「日本骨抜き政策・教育」に日本中が毒されて、未だに精神的には「負け犬」状態が続いている。そんな教育を受けてきた文科省の官僚たちが、表面だけを装って作る教育指針など、現場の教師が遵守できるはずもないことは明らかであり、その教員の中にも所謂「サヨク」が多いのである。

あの韓国ですら、最近までの歴史教科書は「国定教科書」であった。国が都合のいいように歴史を書き換え、自国民に教え込んでいるのである。その証拠に、反日感情のすさまじさは半端ではない。

一方でわが日本はといえば国の検定こそあっても、すべてが民間の教科書会社によるものである。肝心の歴史教科書では、ぎりぎりの表現で子供たちに「悪しき日本」を教え込んできたのである。またそんな教科書が一番採択数が多いという悲しい現実がある。

ここから見直さない限り、北方領土問題の解決は時間とともにますます困難になるだろう。

## 豊頃町 鳥獣被害対策

猪による新治地区での農作物の被害は600万円とも800万円ともいわれているが、実態はよくわからない。一見、金額的には大した被害ではないように見えるが、生産者にとっては重大な問題である。

一方、北海道ではエゾシカによる食害が大きな問題となっており、豊頃町だけでも毎年2,000万円近い被害があるということだ。その対策として捕獲・殺処分という事になるのだが、その9割が埋設や焼却処分となり、残りの1割が食肉、いわゆる「ジビエ料理」の素材として活用されているらしい。

ここには「エレゾ社」という業界では有名な会社があり、その施設を拝見させていただき、処理のノウハウなどをお聞きしたかったのだが、残念ながら叶わず、その代わりに社員の方によるエゾシカ料理をごちそうになった。

今回、ここを視察地に選んだ理由は、新治地区の小学校施設再活用策にこの「ジビエ」が使えないか、という事からである。

昔から牡丹鍋などで猪肉は食用とされているが、決してメジャーな素材ではない。しかし食べてみれば結構うまい食材であり、その流通の希少性を逆手にとって、たとえば廃校となった斗利出小学校を利用した獣肉の処理施設とレストランや産直店、校舎と校庭を利用した合宿所などを組み合わせた「田舎の駅」として活用することができればどうだろう。獣害対策を含め、公共施設の再利用や観光、街おこしと1石3鳥にも4鳥にもなるのではないか。

ただ問題が一つ。福島原発による放射線の影響である。

食品中の放射性物質の残量が100ベクレル以下（放射性セシウム）という国の基準に対して、茨城県では50ベクレル以下という厳しい規制が敷かれている。確かに事故から1~2年後は300以上の数値が測定されていたが、その後は5~60ベクレルという数値に収まっている。

この件について農水省に確認をしたところ、茨城県に問い合わせ返答をくれるという事だったが、未だにその答えが届かない。

まあ、今日明日のことではないのでそんなに慌てはしないが、いずれにしても農水省の補助金などをうまく使って、何とか実現したいものだ。

# 行政視察報告書

明政会 今野 貴子

## ◆中標津町 中標津町児童センター（みらいる）について

中標津町では、町立の児童館を5ヶ所設置しており、子育ての拠点としている。

その核となる児童センター「みらいる」の建設により、利用は増加して10万人を超えたとの事。中標津町の人口は23,000人。

この「みらいる」は、構想、デザイン、運営を中高生の意見を最大限に取り入れるという画期的なもの。行政の取組みで、金額的にもこれほどの施策を、中高生の意見を主体的に取り入れることは簡単なことではない。

結果、中高生が児童館に訪れ、小さい子どもの面倒を見るなどしている。このようなことが各地でも行われれば、子育てに関する問題のいくつは解決されるのだろうと思う。

土浦でこのような大胆な決断ができるだろうか。しなければならぬものの一つであるという勉強をしてきました。

## ◆根室市 北方領土問題への取組みについて

北方四島がロシアに占拠されている事実は、日本人のほとんどが知っているが、正確な事実や現状は、あまり認識されていないのだろうと思います。実生活に直結した問題ではないことや、地理的に北海道東端のことであり、重い課題ではあるが人々の意識にはあまり届かない現実に苦慮されているとの事。

その事を踏まえ、国レベルの外交問題ではあるが、地方行政はどのように参画すべきか、色々な角度からお話を伺いましたが、担当者から「根室が置き去りにされてしまう」という言葉が発せられ、そのようなジレンマがあるということは驚きました。

国にだけ任せていると、根室の現状、思いが届かない国だけの思惑で事が進んでしまうという根室のジレンマは、問題のレベルの違いはあるにしても、どこの行政でも起こりうることであり、それに対してどのように対処するか、日頃からの意識が大切なのだと学びました。

## ◆ 豊頃町 鳥獣被害対策について

豊頃町の鳥獣被害はエゾシカ、キツネ、タヌキ、カラス、ハトなど、種類や規模は範囲が広く、対策をしっかりと行っていないと、農作物被害が大きく町の存続にも影響を及ぼします。

力を入れている対策は、狩猟登録に対する補助を充実させることや電気柵の設置などです。

狩猟税やハンター保険、新規で狩猟免許取得、狩猟の所持許可、購入を町で補助しています。

国庫補助では電気柵を 269, 731m を整備しました。この電気柵設置により農作物被害の軽減が見られたとのこと。

土浦でも猟友会員数が少なくなっていることが問題になっています。

市や県、国の補助の活用や、地域独自の解決法の取組みを推進させていくことが、土浦を農作物生産量を押し上げ、後継者不足の一助にもなるであろうと思いました。